

# ウルグアイの林業分野における日本のODA評価<概要>

(被援助国政府・機関等による評価)

<b>1. 対象国:</b> ウルグアイ	 <p>写真提供: ウルグアイ技術研究室(LATU)</p>
<b>2. 評価者:</b> レプブリカ大学 カルロス・マンテロ氏及びラテンアメリカヒューマンエコノミーセンター レオポルド・フォント氏 (コンサルタント)	
<b>3. 調査実施期間:</b> 2016年10月～2017年3月	
<b>4. 評価内容</b> <b>1) 評価の目的</b> これまでのウルグアイの林業分野における日本の政府開発援助 (ODA) を総括的に評価し、ウルグアイの南南協力戦略のための有益な知見及び提言を得る。 <b>2) 評価対象</b> 1989年から2003年において日本が実施した以下の案件を対象とする。 (i) 国家造林5ヶ年計画 (1989-1991) (ii) 林産工業開発基本計画 (1999) (iii) 林木育種基礎技術開発計画 (1990-1993) (iv) 林木育種計画 (1993-1998) (v) 林産品技術試験計画 (1998-2003) <b>3) 評価手法</b> 「被援助国政府・機関などによる評価実施要領」(外務省 ODA 評価室作成)に基づいて実施する。評価基準は、「政策の妥当性」、「結果の有効性」、「プロセスの適切性」の3項目とする。また、ウルグアイ大統領府予算企画庁(OPP)の行政管理・評価局(AGEV)がこれまでに実施した設計評価、プロセス評価及び実績評価などの知見とグッドプラクティスも活用する。 調査のための情報収集に当たっては、以下の方法を使用した。 (i) 文献調査 (ii) 主要関係者へのインタビュー (iii) 現地調査(施設や設備など)	
<b>5. 評価結果</b> <b>1) 総論</b> 実施された開発調査及び技術協力プロジェクトは、総じて目標を十分に達成した満足のできるものであったと評価する。質の高い技術指導、適切な経歴をもった日本人専門家(特に長期専門家)の派遣、また技術移転や研修が目標の達成に寄与した。また、日本の開発協力は、ウルグアイの林業分野における優先課題と地球規模の開発課題の両方を考慮したものであった。すべての日本の開発調査と技術協力プロジェクトは期待された成果を成し遂げ、ウルグアイの林業開発に大きく貢献したと言える。また短・中期的にはこれらの成果は持続可能であることが示された。 <b>2) 政策の妥当性</b> ウルグアイの林業分野における日本の協力は、評価対象期間の日本の開発協力政策及び改定された ODA 大綱と整合していた。また、ウルグアイの開発計画とニーズにも合致していた。さらに、日本が推進した林業政策とも整合しており、環境に関連する	

主要な国際条約等、ミレニアム開発目標（MDGs）などの国際的イニシアティブにも沿ったものであった。

### 3) 結果の有効性

評価対象期間における日本の開発協力は、同国の林業分野の発展に大きく貢献した。開発調査と技術協力プロジェクトは期待された成果を十分に出し、目標を達成した。人材の育成、技術や機材の提供、またきめ細かい協力と適切な協力期間（短・中長期的に）がそれらに寄与したと言える。

### 4) プロセスの適切性

案件形成の段階で両国が協力し、入念な計画を立てたことにより、ウルグアイ側の開発ニーズが考慮された案件が形成された。知識が豊富な日本の専門家と、ウルグアイの開発ニーズに詳しい現地の専門家の組み合わせがプラスの要因となった。

開発調査と協力プロジェクトの実施過程は円滑で適切であり、目標の達成へとつながった。ウルグアイの制度整備や実施機関の組織体制は、総じて案件実施の制約にはならなかった。日本人専門家（特に長期派遣）と現地のカウンターパートの共同作業が総じて高く評価されている。

## 6. 提言

### 1) 日本の支援を通じた南南協力（三角協力）

本評価で得られた教訓の質と量、そしてグッドプラクティスは満足の行くものであり、南南協力及び日本の参加のもと実施する三角協力において活用できるであろう。

### 2) 長期的な援助効果持続のための戦略的な計画

長期的な援助効果の持続は、ウルグアイの林業分野全体における変化への対応力と時代のニーズへの政府的確な対応力に依存する。適切なアクションを導入するために、将来の機会、脅威、強みと弱みを認識するためのアクターの分析を含め、戦略的に計画を策定することを提言する。

### 3) 評価関連情報の体系化

国際協力に関する記録と情報の体系化を強化させることが望ましい。特に業務進捗報告書、実施済み案件に関する終了報告書及び評価報告書。

### 4) 南南協力及び三角協力のためのグッドプラクティス

- a. 各国の強力なカウンターパートがいることが重要である。
- b. 開発協力を開始する前に、現状・ニーズ、活用できる既存情報・キャパシティ等について深く分析する。
- c. 短・中長期的な計画を策定する。
- d. 林業分野の開発に関し、画一的解決策は存在しないため、グッドプラクティスを蓄積し、適正化させる工夫が必要である。
- e. ウルグアイが林業分野において後発開発途上国に対し技術支援を行う。
- f. 長期間にわたり協力を行う。